

目的や場面、状況に合わせて英語で即興的に話すことができる生徒の育成

—対話を継続・発展させる方法についての気づきを促すICTを活用した指導の工夫—

特別研修員 外国語 飯田 麻衣子 (中学校教諭)

生徒の実態

英語のやり取りが一方通行になってしまっていることがある。



ネイティブスピーカーと自然なやり取りをしてみたい。

教師の願い

生徒が英語を即興的に粘り強く話せるよう支援したい。



英語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況が整った授業づくりをしたい。

手立て1

即興で応じることに慣れるための帯活動

①身近な話題について簡単な英語で伝える生徒同士のミニプレゼン

②ALTのモデル動画を視聴しながら英語で自然に応じるやり取りの練習

手立て2

ICT活用による生徒同士の相互評価を通じた言語活動の修正・改善の効率化

◆活動形態のユニット (役割を変えながら繰り返す)



① 即興性の向上を促す相互評価

双方向授業支援アプリのアンケート機能を活用した評価シート
※評価項目は**具体的な頑張り**を認め、**意欲を高める**2択とする

評価項目例A: 相づち・共感・同意 (やり取り・お互いに)	評価項目例B: 自然な反応 (やり取り・お互いに)
● 会話の流れや内容を理解して相づちや共感・同意をして意味のあるやり取りができていた。	○ 相手の発言に対して準備がなくてもその場で自然に反応していた
○ 会話の流れや内容を理解しているが、少し機械的なやり取りになっていた。	● 発言に対してこれまでの練習を思い出しながら何とか反応していた

② 客観的評価に基づく活動の改善

評価された発表者・聴き手は次の活動の改善のため自己の目標を明確化し、評価者は自己の発表・やり取りの参考にする

日々の共感的な人間関係づくりも相互評価による学び合いの成立に役立つみたい。

緊張したけど、ALTとやり取りしながら発言に合ったアクションをしたり、予想しない質問に答えたりすることができた。もっと自分のことを英語で話したい。

仲間から具体的な評価をもらって次の目標が見えるし、簡単な英語でも話しながら通じると自信になる。



第8時 ALTとのパフォーマンステスト

憧れの人物について英語で伝え、その内容について自由にやり取り

Do you want to be like her?

What job do you want to do?



The person I respect is...

Yes, I do. She taught me a lot.

I want to be a teacher.

実践例

単元名「Unit 5 Legacy for peace」8時間計画
ねらい「The person I respect」(憧れの人物)について発表したり、自由にやり取りをしたりしよう。

第1時から第4時まで

① 双方向授業支援アプリのスライド機能を活用したオリンピック競技や選手に関するミニプレゼン

Really! He is so strong.



He has never given up. I was impressed with him.

② ALTによる憧れの人物についてのプレゼン動画の視聴



He succeeded his dream at last.



すごい人物だな。彼の言葉で何か印象に残るものはあるのかな。

What is his famous saying? That's wonderful!

ALTが話す内容に即興的に応じる練習。個々の学習状況に応じて繰り返し再生やスロー再生の機能を活用してやり取りに慣れ親しむ

第5時から第7時(本時)まで

① 「憧れの人物」のプレゼン発表者と聴き手とのやり取りの様子を撮影して記録すると同時に活動の評価を送受信

英語で反応することは十分できてたよ。次も頑張る。



送信

ありがとう。やり取りしている時には自分では気付かない事があるんだね。

② 記録動画と受けた評価を参考に自己課題を発見し、生徒自身が具体的な目標を入力

「準備しなくても自然に反応する」に課題があったから、もっと練習して即興的に話せるよう改善しよう。



動画で振り返ると受け答えの課題に気づきやすいな。

★今日、特に気を付けたい所
「相手のどんな投げかけにも臨機応変に英語で反応する」

目指す生徒像

目的や場面、状況に合わせて英語で即興的に話すことができる生徒

成果

- 英語を使う必要感のある目的や場面、状況を設定し、ミニプレゼン・モデル動画をを用いた帯活動を継続的に取り入れることで、生徒のパフォーマンスの即興性が向上した。
- ICT端末及び双方向授業支援アプリの活用により、対話の継続・発展に何が必要なのか生徒はリアルタイムで客観的に気付いていた。具体的な自己の課題が分かり、活動の修正・改善に主体的に取り組んだ結果、発表ややり取りにおける自己の目標を達成することができた。

課題

- 授業中に相互評価を取り入れることのメリットを活かしながら、生徒主体の学習活動の時間を減らさない工夫を追究したい。